

◆推薦します

日本近代史研究進展のための超一級資料

遠藤芳信（北海道教育大学 函館校教授）

このたび、松本一郎獨協大学名誉教授の編纂・解説により『陸軍軍法会議判例集 全四巻』が緑蔭書房から出版されることは、大きな喜びであり、ここに近代日本の軍制史・法制史・社会史等の研究を進展させる超一級資料として推薦し、かつ、敬意を表します。

第一に、従来、陸軍の刑事事件に対する司法権行使の特別裁判所として設置された陸軍軍法会議（海軍は海軍軍法会議）の個々の判決は、「公開」「開示」されていませんでした。

陸軍軍法会議管轄の具体的な犯罪罪名は、陸軍省編集・刊行の『陸軍省統計年報』において、統計的件数として知ることができました。しかるに、本判例集には、たとえば、第一巻に「甘粕事件」（大杉栄殺害）の殺人罪判決や「不敬罪」の判決等が収録され、第二巻と第三巻には「抗命」「逃亡」「辱職」「違令」「結党」等の陸軍刑法特有の罪名や治安維持法違反の判決が多数収録され、軍隊の規律・勤務態様と支配秩序維持及び対社会関係等を鮮明に汲み取ることが可能になりました。

第二に、第四巻収録の「陸軍軍法会議関係諸法規」は、軍法会議の体系的な解明・考察のために不可欠であり、特に、当時の「官報」「法令全書」に収録されなかった陸軍省の令達（「陸普」「送乙」等の内部通牒文書）が多数収録されていることも貴重です。さらに、同巻には復員局「陸軍軍法会議廃止に関する顚末書」が収録され、特に、①軍法会議廃止と後継裁判所との間の事務継承、②一九五二年の「講和恩赦」に先立つ、一九四六年の受刑者釈放、③「刑事統計」（中華民国）等における「掠奪」「戦地強姦同致死傷」の罪名件数）、等の関係記述は出色の資料です。

私は「弁護士抜き裁判」が司法界等で云々された三十数年前に、軍制史専攻の視点から陸軍司法制度と軍法会議に関する研究を歴史学研究会の会誌に寄稿したことがあります。それ以降、「暗黒裁判」というべき軍法会議での不条理な裁きを小説化した結城昌治の「軍旗はためく下に」が脳裏を離れませんでした。が、本判例集は陸軍司法制度等の研究深化にとって大いに寄与することでしょう。

◆推薦します

軍法会議の本質解明に不可欠の

第一級資料

山本政雄（防衛大学校 防衛学教育学群准教授）

特別裁判所の設置を禁じた日本国憲法の規定によって、その一つの形態である軍法会議は、今日の我が国には存在しないこともあって、戦後の法学界は本制度について、あまりにも等閑視してきたらしいがある。しかしながら、裁判員制度の発足を契機として、陪審制度を採用していた戦前の刑事裁判が注目される等、大日本帝国憲法下での刑事司法制度にも、これからの司法制度を考えていく上で大いに示唆するものがある。時恰も、今回、松本一郎先生の編纂による『陸軍軍法会議判例集』全四巻が刊行されたことは、この分野の研究者にとって、何物にも代え難い朗報である。と言うのも、先生が「編纂にあたって」で述べておられるとおり、法学における判例研究の重要性にも拘わらず、従来この種の刊行資料が、ほぼ皆無であったからである。

そもそも、当時の刑事訴訟法（大正刑事訴訟法）でも控訴及び上告として規定していた上訴権について、軍法会議法では法令違反を対象とした上告に限定していた。その理由は、軍裁判は「一旦言渡シタル裁判ハ迅速ニ之ヲ執行」するともに「控訴軍法会議ヲ設クルニハ法ノ精神トスル軍裁判權ト軍司令權トノ一致ヲ犠牲ニ供スルニ非サレハ不可能」とされたからである。（日高巳雄「陸軍軍法会議法講義」昭和九年）。ここに、軍法会議の本質が暗示されているが、統帥権の影響が不可避であった司法権行使の実態を知る上で、判例研究の必要性は、むしろ通常裁判以上と言っても過言ではなからう。そして、その究極とも言うべき判例の研究として、先生が既に『二・二六事件裁判の研究』（緑蔭書房、平成二年）を世に問われていることは、周知のとおりである。

またここに本書が刊行されたことによって、軍法会議に関する法学分野のみならず、旧日本軍の特質解明に取り組む軍事史研究等、様々な分野での研究が大いに進捗するであろうことを信じて止まない。

松本一郎編・解説（獨協大学名誉教授）

陸軍軍法会議判例集

全四巻

一本資料集の構成―

- 1 陸軍軍法会議判決録 第一巻 松島邦夫編
 - 2 陸軍軍法会議判決録 第二巻 松島邦夫編
 - 3 陸軍高等軍法会議判例集 憲警研究学会編
 - 4 陸軍高等軍法会議判決要録 陸軍高等軍法会議編
- ◆参考資料（4巻に収録）
- 陸軍刑法・陸軍軍法会議法
 - ◆関連資料（4巻に収録）
 - 陸軍軍法会議関係諸法規
 - 陸軍刑法部長会同決議綴
 - 軍法会議法研究 近衛師団軍法会議
 - 陸軍軍法会議廃止に関する顚末書 復員局

推薦 遠藤芳信（北海道教育大学 函館校教授）
山本政雄（防衛大学校 防衛学教育学群准教授）
体裁 A5判・上製・クロ入装・ケース入り・総34000頁
定価 本体価格90000円＋税
刊行 7月一括刊
ISBN978-4-89774-311-0

陸軍刑事法制の実態解明に不可欠。また、近代日本の軍事史・法制史・社会史・歴史・日本史等の研究者、研究機関必備！

―関連図書のご案内―

陸軍大臣官房編纂による日本陸軍の根幹資料
「陸軍成規類聚」資料集成
森松俊夫監修／松本一郎編・解説

全4集完結

陸軍成規類聚 昭和版
〈第1集〉本書は陸軍のあらゆる活動の基準となった根拠文書であり、巨大組織「日本陸軍」の〈制度・組織・機構・教育等〉を研究する上で不可欠な史料。底本は陸軍大臣官房図書閲覧室所蔵版で、戦後には「法制改廃委員会」が使用した「昭和一九年八月第三六版」。
全7巻・別巻1／揃180000円

陸軍成規類聚 別冊 軍事秘密
〈第2集〉「成規類聚」で公開できない軍令・通達などを収録。底本は偕行社所蔵版（最終追録一九年一一月）。
全1巻／28000円

陸軍成規類聚 明治版
〈第3集〉日露戦争後の陸軍軍制を知る上で必須の史料。底本は靖国偕行文庫所蔵版（明治四四年二月第六版）。
全3巻／揃60000円

「陸軍成規類聚」研究資料
〈第4集〉本書は「成規類聚」の概説書として①「陸軍軍制史梗概」（山崎正男）、②「山崎正男氏対談記」、③「陸軍軍制史話」〈原題「軍制よもやま話」〉を収録。
全1巻／18000円

緑蔭書房
〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1
☎ 03 (3579) 5444
[消費税が別途加算されます]

●下記の書店にお申し込みください。

▼知られざる軍法会議の実態！
今回、初めて軍法会議の裁判記録（判決書）を関連資料と併せて刊行する！

陸軍軍法会議
判例集
全四巻

松本一郎編・解説（獨協大学名誉教授）

▼現代の日本では、軍法会議といえは、憲兵制度とともに、戦前の旧陸海軍における非人道的な統治システムとしてのイメージが想起され、また戦後は、軍法会議が存在しないという事情と、当時の裁判資料の欠如により今日までその実態は知られてない。
▼今回の新発掘した裁判記録が軍法会議の本格的研究の端緒となることを期待したい。



緑蔭書房

